

希望の鐘

第191号

ひとつのつぼみはいちどしかひらかない

夏の日差しではありましたが、やや涼しげな風が気温をやわらげ、まさに体育祭日和の中、8月29日（日）、令和3年度の小中野中学校体育祭が開催されました。『コナ中革命～一人一人が立ち上がり想いを一つに突き進め～』のテーマのもと、実行委員長の〇〇〇〇さんを始め各軍団長、応援リーダーが指示を出し、生徒を動かしていました。この意味では「生徒の、生徒による、生徒のための体育祭」でした。結果は応援賞青軍、行進賞紅軍、総合優勝紅軍でした。近年まれにみる接戦で、最後のリレーまでどちらに転ぶかわからない戦いでした。18点差で紅軍に勝利の女神が微笑みましたが、必死になって自軍の勝利目指し突き進む、小中野中生150名が一体となって活動している姿は、観客の皆様方に感動を与えることができたのではないのでしょうか。

コロナ感染防止のために、マスク着用、こまめな消毒はもちろんのこと、ご来賓のご来場をご遠慮いただき、また、各家庭2名までのご来場、保護者の方々に立ち入り制限区域を設けさせていただく等、様々な感染防止措置を施させていただきましたが、ご理解とご協力いただきましたこと、深く感謝申し上げます。

〇紅軍団長 〇〇〇〇

今回の体育祭はとても疲れしました。特に体育祭週間は毎日が大変でした。僕は、みんなをまとめる立場になったことは一回もありませんでした。そのため僕は団長になった時から不安でした。僕たち3年生のリーダーは、夏休みも学校に来てダンスなどを考えていたので、今年の夏休みは今まで一番大変でした。体育祭週間はさらに辛かったです。軍練習の一日目は1、2年生をまとめることに時間がかかりました。僕もあせって変な指示を出したりして、とても苦労しました。その時助けてくれたのが3年生の副団長や応援リーダーでした。僕がうまく言えなくなってしまった時、代わりに副団長が指示を出してくれました。他にも1、2年生にダンスを教える時、3年生のみんなが頑張っていました。自分一人ではできないことも、みんなが協力してくれることで上手くいくということを改めて実感することができました。

そして、体育祭当日。気温は少し暑いぐらいで、天気は去年とは違いよく晴れていました。紅軍にとって様々なアクシデントがありました。僕が一番頭に残っているのは綱引きでのジャンケンです。紅軍、青軍ともに1回ずつ勝ちました。そこで場所をとるためのジャンケンをしました。ここを勝てば紅軍の勝利につながるというところで負けてしまいました。結果、綱引きは敗れてしまいました。僕はこれで優



勝できなかったら自分のせいだと内心焦っていました。でも、午後の団体競技で2年生が勝ってくれました。そしてリレーでは、僕が前を走る青軍を追い越して、そのまま優勝することができました。

今回の体育祭を通して、協力することの大切さを実感しました。僕は、最初不安でいっぱいでしたが、心強い副団長や応援リーダーがいてくれたおかげで優勝することができました。3年間で一番大変で一番楽しい体育祭でした。こんな僕に最後までついてきてくれた学級のみんな、紅軍の後輩たち、本当にありがとうございました。

○青軍団長 ○○○○

体育祭を通して、リーダーの存在意義や、そのリーダーについてきてくれた仲間の大切さを学びました。僕は、今まで前に立ってみんなに指示を出したり、何かを企画したりすることを避けてきたので、団長としての責任をととても重く感じていました。夏休みに入り、リーダーだけの話し合いではなかなか意見がまとまらなかったり、食い違うことがあったりして、みんなをまとめることの大変さを知ることができました。計画通りに進まず、やらなければならないことも多いなかで助けてくれたのは副団長や応援リーダーのみんなでした。協力して創り上げた応援合戦は、最高の仕上がりでした。

夏休みも終わり、いよいよ軍練習が始まりました。最初のうちは上手く指示が出せずに1、2年生を困らせたり時間ばかりかかってしまうことがありました。しかし、日数が経つにつれ全体に指示を出すことに慣れてきて、1、2年生もすぐ動いてくれました。また、なかなか覚えてくれなかったダンスも覚えることができました。

予行も終わり、いよいよ当日を迎えました。去年の大雨とは打って変わり、晴天の中で迎えた体育祭。接戦の中、今まで練習してきた成果を発揮して応援賞を勝ち取ることができました。結果としては準優勝でしたが、青軍テーマ「青輪奪取」のもと、青軍全員が一つの輪となって協力し、一つ一つの競技に全力で取り組むことができ、また、みんなが応援したからこそ、最高の体育祭を創り上げることができました。そして、僕の目標であった笑顔で終わるということも達成することができました。仲間を信じ、全員が自分の力を最大限に発揮できたからこそ、悔い無く笑顔で終わったのだと思いました。

これまでの話し合いや練習を振り返ると、仲間の大切さを実感します。一人ではできないことも、仲間がいたからこそ、様々な困難を乗り越えることができました。みんなと戦えたことを誇りに思います。僕にとって仲間は一生の宝物です。

